

## 1 目的

市の障がい者福祉に関する課題のうち、行政で取り組むこと、協議会で取り組むことを整理し、協議会の方針を決める。

### 2-① 目標、達成度

障がい者相談支援事業等で確認できた地域課題の解決に向けた取組の方針が、運営会議構成員内で共有されている。	取組内容の達成度	85%	次年度の方向	継続
--	----------	-----	--------	----

### 3-① 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
相談支援事業等（個別支援会議や事例検討会等）で確認できた地域課題の報告を基幹的相談センターから受ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>基幹的相談支援センター担当から地域課題の報告を受けた。</li> <li>令和5（2023）度は、事例検討会及び相談支援専門員が対応している個別のケースの他、サービス担当者会議から抽出した課題についても確認した（会議開催数56件）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域課題が整理され、運営会議構成員で地域課題を共有できた。</li> <li>運営会議構成員が、相談支援業務の中で地域課題を意識できるようになった。</li> <li>障がい者相談支援事業等で確認できた地域課題を障がい者福祉計画に反映できた。</li> <li>地域課題を踏まえて、次年度の協議会運営について検討することができた。</li> </ul>	令和4（2022）年度までは、毎月の運営会議では地域課題の共有にとどまり、具体的な取組の協議には至らなかったが、令和5（2023）年度は、地域課題の協議方法を検討し、地域課題の解決に向けた取組について協議できたため、今後も継続したい。
地域課題の解決に向けて、どのように取り組むか協議する。	毎月の運営会議で地域課題の解決方法を検討し、協議会及び相談支援事業等で対応できる課題かどうか整理を行った。		
必要に応じて、他の機関・会議体へ働きかける。	確認できた地域課題を福祉課障がい者福祉計画担当に報告した。		

### 2-② 目標、達成度

各専門部会及び検討チームが滞りなく運営されている。	取組内容の達成度	80%	次年度の方向	修正
---------------------------	----------	-----	--------	----

### 3-② 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
必要に応じて、各専門部会等の運営についての協議・助言を行う。	各専門部会等の担当から報告を受け、年間計画表と照らし合わせながら進捗確認を行った。必要に応じて、運営についての協議・助言を行った。	各専門部会等が、年間計画表に沿って運営し、一定の成果をあげることができた。	限られた時間の中で活発な意見交換と運営ができる工夫が必要である。今後、他部会等と協働した取組ができると良い。

### 2-③ 目標、達成度

全体会で協議すべき内容及び優先順位が整理・共有されている。	取組内容の達成度	100%	次年度の方向	継続
-------------------------------	----------	------	--------	----

### 3-③ 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
各専門部会等の報告に加え、全体会構成員全員で協議を行えるような議題について検討し、決定する。	全体会前に議題（協議内容）を話し合い、運営会議構成員間で共有した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部会等の取組を共有でき、全体会を円滑に進めることができた。</li> <li>協議すべき内容に優先順位をつけ、限られた時間で検討することができた。</li> </ul>	令和4（2022）年度までは、全体会が各部会等の報告に時間を取られ、地域課題や地域生活支援拠点の整備に関する意見交換の時間が少なかったが、令和5（2023）年度は、協議方法を検討し、少し改善したため、今後も継続したい。

#### 4 次年度の目標（案）

①障がい者相談支援事業等で確認できた地域課題の解決に向けた取組の方針が、自立支援協議会構成員内で共有されている。

②各専門部会及び検討チームが滞りなく運営されている。他部会等と協働して取り組まれている。

③全体会で協議すべき内容及び優先順位が整理・共有されている。

令和5(2023)年度みよし市障がい者自立支援協議会 人材育成検討チーム 事業報告書

(作成：令和6(2024)年3月12日、担当：障がい者支援センターたいざん 相談支援専門員)

1 目的

障がい福祉従事者がソーシャルワークを意識して、業務に取り組めるようになる。

2-① 目標、達成度

障がい福祉従事者がソーシャルワークの視点を意識できている。	達成度	30%	次年度の方向	継続
-------------------------------	-----	-----	--------	----

3-① 取組内容

取組内容	実績	成果	課題(展望)
障がい福祉従事者を対象として地域診断表(事業所の意識・関わり)を意識できる研修を企画・開催する。	9月に「障がい者福祉計画」をテーマとした研修を企画したが、研修の開催目的を見直すことになり、来年度に延期した。	事前アンケートから、市内事業所管理者及び従事者は、「障がい者福祉計画」に関する研修を希望していることがわかった。	市福祉課から講師を招き、管理者・施設長を対象に「障がい者福祉計画」に関する研修を開催できるよう検討する。
	3月に障がい福祉従事者向け研修「しゃべり場」を開催した。参加者：9事業所、10名。	市内障がい福祉事業所から研修委員を募り、研修委員が必要と思う研修を企画・開催することにより、ソーシャルワークの視点を持つことができた。	研修委員を募り、研修の開催に係わることによりソーシャルワークの視点を持つ人材を広げられるようにする。

2-② 目標、達成度

障がい福祉従事者同士のネットワークが強化できている。	達成度	50%	次年度の方向	継続
----------------------------	-----	-----	--------	----

3-② 取組内容

取組内容	実績	成果	課題(展望)
管理者同士がみよしの課題を共有できるようにするため、管理者向け研修を開催する。	7月に「人材育成をテーマ」とした研修を開催した。参加者：13事業所、23名。	参加者アンケートで「事業所同士のつながりへの意識に変化は？」との問いに、変化があった81%、変化がなかった19%と回答があった。管理者がネットワークの強化の必要性を理解していることがわかった。	管理者にネットワークの強化の必要性を理解してもらっているが、「ネットワークが強化できる」研修までできていないため、管理者が共通して関心を持つテーマを設定し、事業所同士のネットワークの強化を図る。
	1月に「強いチーム作り」をテーマにした研修を開催した。参加者：9事業所、11名。	みよし市全体として事業所同士がつながり、チームを作る必要性を理解してもらえた。	みよし市全体でチームを作る必要性を理解してもらっているが、「チーム作りができる」研修までできていないため、サビ管・児発管等の中間管理職を対象にした研修を開催する。

市内事業所職員同士が気軽に意見交換できる機会を設ける。	10月に「どんな気持ちで働いている?どんな時に仕事の楽しみを感じる?」をテーマにした研修を開催した。参加者：17事業所、30名。	「つながり」が持てたというアンケート回答から、事業所職員同士が気軽に交流できる場となったことがわかった。	市内事業所職員同士が一斉に集まることのできる時間帯と場所があまりなく、より参加しやすい時間帯と場所を検討し、気軽に交流できる場を設ける。
-----------------------------	--	--	--

### 2-③ 目標、達成度

障がい福祉従事者が強度行動障がいについて理解を深められている。	達成度	70%	次年度の方向	継続
---------------------------------	-----	-----	--------	----

### 3-③ 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
他市町の強度行動障がい児・者に対する支援事業について確認し、市内の実情に合わせた研修を行う。	12月に「強度行動障がい、障がい特性の理解」をテーマにした研修を開催した。参加者：9事業所、17名。	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域課題に挙がっている「専門的な人材育成の確保・育成」項目の強度行動障がい児・者の研修を開催することができた。</li> <li>研修に参加した事業所職員の強度行動障がいの理解が深まった。</li> </ul>	強度行動障がい児・者を受け入れていない事業所の理解が進んでいないため、今年度不参加の事業所への促しを積極的に行う。

### 4 次年度の目標（案）

① 障がい福祉従事者がソーシャルワークの視点を意識できている。
② 障がい福祉従事者同士のネットワークが強化できている。
③ 障がい福祉従事者が強度行動障がいについて理解を深められている。

#### 【みよし市障がい者自立支援協議会が定義するソーシャルワークの定義】

ソーシャルワーク（社会福祉実践）の専門職は、人間がよりよく生きていけるようになることを目指します。社会に問題があれば社会を変え、人間関係に問題があればその問題を解決し、人々が本来持っている力がうまく引き出せるようにします。ソーシャルワークは、人の行動と社会のシステム（仕組みと働き）に関する理論をうまく使って、人々が社会と環境と互いに影響しあうところに働きかけます。人権と社会正義を大切にすることは、ソーシャルワークの一番の基本です。

※引用：国際ソーシャルワーカー連盟のソーシャルワークの定義（意訳）長崎和則

令和5(2023)年度みよし市障がい者自立支援協議会 暮らしの場検討チーム 事業報告書

(作成：令和6(2024)年3月12日、担当：わらび 相談支援専門員)

1 目的

障がい者(児)が、地域で生活できる仕組み(緊急時対応、住まいの場の確保等)を構築する。

2-① 目標、達成度

緊急時の受け入れ体制が整備できている。	達成度	70%	次年度の方向	継続
---------------------	-----	-----	--------	----

3-① 取組内容

取組内容	実績	成果	課題(展望)
緊急時の受け入れ体制の検証と評価を行う。課題が確認された場合は、修正する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>WGを年3回開催し、緊急時の受け入れ体制について協議した。</li> <li>8月に豊田市に緊急時の受け入れ体制についてヒアリングを実施した。</li> <li>相談支援専門員に緊急時対応の登録案内状況を確認した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊田市の緊急時の受け入れ体制(特に短期入所満床時に緊急時対応として受入れた場合の報酬等について)や緊急時対応の実績を知ることができた。市と市内の2つの短期入所事業所が緊急時対応の協定締結に向けた協議を開始した。</li> <li>1名が緊急時対応の登録を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、緊急時対応の登録が必要と思われる方に登録案内を行う。</li> <li>緊急時対応の登録状況や実績から、成果や課題を確認する必要がある。課題が確認された場合は、解決に向け協議する。</li> </ul>
新たな受け入れ先を増やす為、受け入れ方法について協議する。 新たな受け入れ候補先：さくらの丘((社福)あゆみ会)、マムハウス((一社)キッズラバルカ)、障がい者等サポートセンター(福祉課)等	WGを年3回開催し、新たな受け入れ先を増やすため、受け入れ方法について協議した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急時受け入れのための協定書が完成し、受け入れ先を3箇所確保できる見込み。</li> <li>新たな受け入れ先確保に向けて、市内事業所に働きかけることができたようになった。</li> </ul>	緊急時受け入れ・対応の手順等を示し、新たな受け入れ先の確保に向けて調整していく。

2-② 目標、達成度

住まいの場の確保について、話し合う場の設置や仕組みが構築できている。	達成度	40%	次年度の方向	継続
------------------------------------	-----	-----	--------	----

3-② 取組内容

取組内容	実績	成果	課題(展望)
不動産業者や大家等と意見交換を行い、課題を探り、解決方法を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>2月の不動産仲介業者との意見交換会実施に向け助言機関及び福祉課と協議した。</li> <li>不動産仲介業者の参加申込がなく、来年度に延期することになった。</li> </ul>	助言機関との打合せにより、不動産業者の福祉に対する理解や苦労した経験等を考慮し、まずは不動産業界の市場の状況確認から始めると良いことが分かった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>不動産仲介業者への訪問等を行い、来年度開催できるよう準備を行う。また、意見交換会を積み重ねて相手の本音を聞き出し、課題を探る必要がある。</li> </ul>
市役所各課、社会福祉協議会、相談支援専門員等と情報を共有していく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談支援専門員に「居住支援についてのアンケート」を実施した。</li> <li>市内4箇所の地域包括支援センターに居住支援のヒアリングを実施した。</li> </ul>	相談支援専門員へのアンケートで、居住先が見つからないケースがあると答えた方が4名/9名中、居住先からの退去や近隣住民からの苦情等で対応したケースがあると答えた方が6名/9名中だった。また、「契	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談支援専門員及び地域包括支援センターに開催周知を行う。</li> </ul>

		<p>約時の審査に通らなかった」や「近隣住民や管理会社の理解が必要」といった課題を確認できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 地域包括支援センターへのヒアリングから、年齢や認知症、独居で亡くなった場合の対応等が要因で住居が見つからないケースがあることが分かった。</li> </ul>	
--	--	--	--

### 2-③ 目標、達成度

宿泊体験の場が確保できている。	達成度	70%	次年度の方向	継続
-----------------	-----	-----	--------	----

### 3-③ 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
宿泊体験の場が必要と思われるケースを相談支援専門員に確認する。	相談支援専門員に宿泊体験の場が必要と思われるケースの実態調査を行った。	宿泊体験の場が必要と思われるケースが6件確認できた。「地域移行支援として」が1件、「一人暮らしに向けて」が2件、「GH利用に向けて」が2件、本人に合う生活環境の確認（一人暮らし又はGH）が1件だった。	宿泊体験の場のニーズや他市町の体験の場の設置状況から、みよし市に合う宿泊体験の場の設置に向けて協議する。
体験の場について、他市町の取組みをヒアリングする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 12月に半田市に宿泊体験の場のヒアリングを行った。</li> <li>• 2月に安城市に宿泊体験の場のヒアリングを行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 半田市は、放課後等デイサービスや生活介護、就労継続支援B型等の普段から日中支援を行っている事業所に宿泊体験の機会を提供してもらう体制を整備していることが分かった。</li> <li>• 安城市は、市内にある法人の職員寮を一室借り、宿泊体験の機会を提供している。地域生活支援拠点コーディネーターを中心に体制を整備していることが分かった。</li> </ul>	

### 4 次年度の目標（案）

① 緊急時の支援体制が整備できている。
② 居住支援について協議する場や支援の仕組みができている。
③ 体験の場が設置され、体験の機会を提供できている。

【みよし市障がい者自立支援協議会が定義する「緊急時」・・・】

日中・夜間問わず、本人又は家族等では対応できないような緊急の事態。

令和5(2023)年度みよし市障がい者自立支援協議会 地域生活支援拠点検討チーム 事業報告書

(作成：令和6(2024)年3月12日、担当：しおみの丘 相談支援専門員)

1 目的

障がいの重度化・高齢化や「親亡き後」を見据え、居住支援のための5つの機能を、地域の実情に応じた創意工夫により整備し、障がい児(者)の生活を地域全体で支える体制を構築する。

2-① 目標、達成度

地域共生ワークショップで出された企画を実現できている。	達成度	80%	次年度の方向	継続
-----------------------------	-----	-----	--------	----

3-① 取組内容

取組内容	実績	成果	課題(展望)
ワークショップで出された企画のプロジェクトチームを立ち上げ、実現に向けて取り組んでいく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>6月にプロジェクトチームを発足し、「誰もが歩きやすいウォーキングマップ作り」に取り組むことを決定。</li> <li>9月にプロジェクトチーム名を「別班(オールみよしの)」に決定。</li> <li>10月、12月、2月、3月に「ヘルスパートナーとみよしを歩こう」に参加。</li> <li>1月に三好丘緑地周辺のコースを散策。</li> <li>10月、12月、1月、2月、3月にウォーキングに参加した振り返りを行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度のワークショップで挙げた課題を実際に取り組み、実現に向けて進めることができた。</li> <li>意識の高いメンバーがプロジェクトチームの構成員となり、地域の情報を共有することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意識の高いメンバーで構成されているが、それぞれの業務がある中での参加となり、参加できる人数が限定されている。</li> <li>プロジェクトチームのゴールを明確にしていないため、現プロジェクト達成後の動向が未定。</li> </ul>

2-② 目標、達成度

地域診断表の8つの機能のレベルアップが図られている。	達成度	80%	次年度の方向	継続
----------------------------	-----	-----	--------	----

3-② 取組内容

取組内容	実績	成果	課題(展望)
暮らしの場検討チーム、人材育成検討チームの進捗状況を確認するために、定期的に情報共有をする。	7月と9月に暮らしの場検討チームと人材育成検討チームで情報共有会議を行った。	暮らしの場検討チームと人材育成検討チームと情報共有を行い、進捗確認をすることはできた。	各検討チームで情報共有はできているが、具体的な機能のレベルアップまでは至っていない。
他分野を知り、障がい分野を知ってもらい、お互いの連携を深めるため、協議体に参画する。	毎月きたよし・おかよし地区、なかよし地区、みなよし地区の第2層協議体に参画した。	各包括の第2層協議体に参画することで、地域の情報を共有することができた。また、地域住民に障がいの相談員の役割を知ってもらうことができた。	協議体に参加することで地域とのつながりを作ることはできたが、参加している相談支援専門員が限定されているため、各委託の相談支援専門員がいずれかの協議体に参加し、結びつきを強くすることができると良い。
市の重層的支援体制整備準備プロジェクトチームに参画し、地域共生ワークショップの後継事業を開催する。	重層的支援体制整備準備プロジェクトチームに参画し、別班(オールみよしの)の活動に参加する。重層的支援体制整備について長久手市地域共生推進監である國信氏を講師に招き、講演会を開催。	講演会では、市議会議員や民生児童委員を中心に100名近くの参加があり、みよし市の重層的支援の在り方や課題を共有することができた。	市議会議員や民生児童委員が地域共生社会について関心が高いことがわかったため、今後は具体的な連携につながっていくと良い。

### 2-③ 目標、達成度

地域診断表の様式が改定できている。	達成度	100%	次年度の方向	修正
-------------------	-----	------	--------	----

### 3-③ 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
全体会構成員と昨年度の地域診断表の評価を共有し、課題を明確化する。	第1回全体会で構成員から意見をもらい、第2回の全体会で新様式の案と市内の実情を示した参考資料を提示した。	第1回全体会で構成員から市内の実情がわかりにくいと意見をもらい、構成員が地域診断を行う上での参考資料を作成することができた。 地域診断表の評価理由の記入欄を広げたため、構成員の評価理由を確認しやすくなった。	市内の実情を周知するための資料を作成したが、文章のみのため、周知の内容が限定されてしまう。より伝わりやすい内容にブラッシュアップできると良い。
令和6年度からの様式改定に向けて、第1回全体会で構成員から意見を伺い、第2回の全体会で新様式の案を提示。意見を伺い、第3回の全体会で決定する。			

### 4 次年度の目標（案）

① 地域共生ワークショップで出された企画を実現できている。
② 地域診断表の8つの機能のレベルアップが図られている。
③ 地域の実情が周知できる仕組みができている。



令和5(2023)年度みよし市障がい者自立支援協議会 児童部会 事業報告書

(作成：令和6(2024)年3月12日 担当：相談支援OKサポート、相談支援事業所わらび 相談支援専門員)

1 目的

障がい児の早期発見とライフステージに応じた地域での生活を支援するための協議及び事業を行うことにより、障がい児の福祉、保健、保育及び教育を実施する関係機関の職員及び家族の療育意識を高め、障がい児福祉の向上を図る。

2-① 目標、達成度

市内保育園・幼稚園で過ごす発達の良いお子さんについての実態を知り、課題を具体化できている(早期対応段階の取組)。	取組内容の達成度	50%	次年度の方向	継続
--	----------	-----	--------	----

3-① 取組内容

取組内容	実績	成果	課題(展望)
乳児保育を担当している保育士への実態把握を行うためのアンケートを実施する。	10月にGoogleフォームを活用し、アンケートを実施した。	68名の保育士から回答を得ることができた。 【回答】 ・担当しているクラスの中に「発達が気になる子」がいる - 89% ・不安や困りごとがある - 89% ・他機関との連携が必要 - 92% ・訪問相談を利用したい - 92%	アンケートの実施や研修への参加から、「子どもへの対応」、「保護者対応」、「他機関連携」、「訪問相談」というキーワードの共有はできたが、具体的な取組の協議には至らなかった。課題解決に向け、具体的な検討が必要である。
アンケート結果から見えてきた課題に関して、解決方法を検討するために他市町の見学や研修などに参加する。	11月に全国児童発達支援施設運営協議会に参加した。 【メインテーマ】 地域で支える子育て支援と未来志向の児童発達支援	以下の内容に関して把握することができた。 ・こども家庭庁の創設について ・地域の子育ての拠点としての児童発達支援に期待されていること ・子どもが安心して育つ家庭を支えることについて ・障がいのある子どもと家庭を支える地域づくりについて	

2-② 目標、達成度

「みよし・つながりシート」のその先に続くリレーシートについて、必要性が確認できている(就学移行段階の取組)。	取組内容の達成度	50%	次年度の方向	継続
--	----------	-----	--------	----

3-② 取組内容

取組内容	実績	成果	課題(展望)
シートは園から小学校へ入学する際に活用される。「つながりシート」のその先(小・中・高など)をつなげていくものが必要か検討する。	・部会内でリレーシートの必要性について検討した。 ・学校教育課担当者と打ち合わせを行った。	構成員から率直な意見を聞くことができた。 【意見(抜粋)】 ・リレーシートがあることで保護者の負担は減るが、教員の負担が増えるのではないか。 ・ターゲットを誰にするのか。 ・個別の教育支援計画、指導計画は、小学校、中学校、高校までを繋いでいる。	個別の教育支援計画や指導計画があることが分かったが、各計画の活用方法等に関して詳細を確認し、検討する必要がある。
他市町の情報に関する参考資料を集める。	3県(愛知県、青森県、大分県)、4市1区(名古屋市、一宮市、春日井市、札幌市、東京都大田区)のシートの情報を集めた。	記入者は保護者又は本人がほとんどで、対象時期は思春期後や成人期、就職期等様々であることが分かった。	他市の情報を基に、みよし市での対応方法について検討する必要がある。

部会から出たシートの課題に関して、特別支援教育連携協議会に提案していく。	6月と2月の特別支援教育連携協議会に参加した。	児童部会での協議内容を報告した。	今後も特別支援教育連携協議会に参加し、進捗状況の報告を行う。
--------------------------------------	-------------------------	------------------	--------------------------------

## 2-③ 目標、達成度

保護者支援を目的に、「語る場」の設置ができている。	取組内容の達成度	50%	次年度の方向	継続
---------------------------	----------	-----	--------	----

## 3-③ 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
各所属機関が取組んでいる保護者支援の進捗状況を確認する。	児童部会の中で構成員の所属機関が取り組む保護者支援に関して確認した。	各機関が保護者支援の重要性を感じ、取り組んでいることが分かった。	今後も進捗状況を確認し、現状の評価を行い、課題がある場合は課題に関する取組等を検討する。
他市町の「語る場」の見学に行く。	11月に子ども発達支援センター『すくすく園』、12月に児童発達支援センター『さわらび園』を見学した。	各機関が行う保護者支援や「語る場」について意見を聞くことができた。	みよし市の考える「語る場」のイメージ像が共有できていないため、今後も引き続き検討が必要である。
『ふたば』や『よつば』の卒園児の保護者へヒアリングを実施する。	対象となる保護者決めを行った。	対象保護者とヒアリング内容は決まったが、日程調整が遅く実施できなかった。	早急に日程調整を行い、ヒアリングを実施する。

## 4 次年度の目標（案）

① 市内保育園・幼稚園で過ごす発達の気になるお子さんについての課題を具体化できている（早期対応段階の取組）。
② 「みよし・つながりシート」のその先に続きリレーシートについて、必要性が確認できている（就学移行段階の取組）。
③ 保護者支援を目的に、「語る場」の設置ができている。

### 1 目的

働く意思を持っている障がい者及び障がい者を雇用している企業または障がい者を雇用しようとしている企業を支援するために、必要なシステムや事業等を協議・検討し、具体的に実施していく。

### 2-① 目標、達成度

就労の定着率が向上している。 達成度 100% 次年度の方向 終了

### 3-① 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）																				
相談支援専門員、就労支援員に就労定着の実態調査を依頼する。	令和2（2020）年から令和4（2022）年までに相談支援専門員と就労支援員介入のもと就職し、のちに退職した8名について、相談支援専門員と就労支援員に対して調査を実施した。	作業や人の変化、負担感、話せる人の有無等は、離職に大きく関係していないことが分かった。離職理由について、「訓練あり」の人は様々であったが、「訓練なし」の人は体調と人間関係を理由に挙げた人がほとんどだった。辞めて良かったと答えた人の比率は低く、人間関係を理由に挙げた人は全員だった。そのため、体調管理の重要性と共に、人間関係の早期調整の必要性が分かった。社会経験を目的にアルバイト感覚で働き始める方がいることや働くニーズに違いがあることが分かった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>手帳取得者で支援機関を利用していない人の実態が不明である。</li> <li>体調等の確認をするための体験先があると良い。</li> </ul>																				
前回調査と合わせ、みよし市の就労定着率を確認する。	<p>就労定着実態調査をもとにしてみよし市の令和2（2020）年度から令和4（2022）年度までの定着率を算出し、JEEDの調査結果と比較した。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td></td> <td>3カ月後</td> <td>6か月後</td> <td>1年後</td> </tr> <tr> <td>就労移行</td> <td>95%</td> <td>95%</td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td>相談支援専門員、就労支援員</td> <td>88%</td> <td>79%</td> <td>71%</td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td>91%</td> <td>87%</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>JEED</td> <td>77%</td> <td>69%</td> <td>59%</td> </tr> </table>		3カ月後	6か月後	1年後	就労移行	95%	95%	90%	相談支援専門員、就労支援員	88%	79%	71%	全体	91%	87%	80%	JEED	77%	69%	59%	<ul style="list-style-type: none"> <li>就労移行支援事業所や相談支援専門員、就労支援員を介して就職した人は定着率が高いことが分かった。</li> <li>「訓練あり」の人と「訓練なし」の人では、定着率に差が見られる。訓練を通し、作業スキルや体調の変化等を確認できることも一因と思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援機関を利用せず就職した人の実態は不明。</li> <li>作業スキルや体調を確認できる体験先があると良い。</li> </ul>
	3カ月後	6か月後	1年後																				
就労移行	95%	95%	90%																				
相談支援専門員、就労支援員	88%	79%	71%																				
全体	91%	87%	80%																				
JEED	77%	69%	59%																				

### 2-② 目標、達成度

職場体験先が増加している。 達成度 100% 次年度の方向 終了

### 3-② 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
職場体験冊子の配布を把握する。	配布数189部	職場体験の新規受け入れについて、7社から了承を得た（うち、就労支援員の訪問5社）。	<ul style="list-style-type: none"> <li>職場体験の受け入れを拒否した企業があったため、職場体験冊子の配布や依頼を継続し、周知啓発できると良い。</li> <li>冊子の情報量が多く、分かりづらい面がある。簡素化したものがあると良い。</li> </ul>
職場体験冊子の配布先を訪問し、意見交換を行う。	ハローワーク豊田主催「採用のための求人説明会」150部、中小企業家同友会西三河支部30部、個別配布9部（7社訪問、2社架電）。		

現状の職場体験先をリストアップし、職種を確認する。	令和4（2022）年度体験実習受け入れ企業と令和5（2023）年度新規受け入れ企業のリストを作成した。	学校や支援機関のそれぞれの実習先が分かるようになった。	就労支援員に情報を集約し、就労支援事業に管理を移す
DVD の評価を行い、今後の活用方法を検討する。	障がい者雇用支援セミナー参加者にYouTubeにて限定配信後にアンケートを実施し、3社から回答を得た。	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がい者雇用支援セミナーの参加企業2社から、社内研修や地域の研修会で使用したいと申し出があった。</li> <li>DVD を見た2社から、認識が変わったと回答を得た。また、DVD の活用方法については、「よく分からない」と回答があった。</li> </ul>	貸出は今後も継続する。譲渡は、使用の目的を把握し、効果の確認を行う。

### 2-③ 目標、達成度

部会構成員の機能、役割が明確になっている。	達成度	100%	次年度の方向	終了
-----------------------	-----	------	--------	----

### 3-③ 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
部会構成員へヒアリング調査を実施し、今後の在り方を検討する。	11月と12月に事務局が構成員を訪問し、ヒアリングを行った。	<ul style="list-style-type: none"> <li>部会構成員の機能と役割、課題を知ることができた。</li> <li>福祉的就労や各機関との連携、障がい者就労の理解、居場所、交通等の課題が挙げられた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉的就労について検討するため、WG を設置する。</li> <li>各機関の連携を強化する。</li> </ul>

### 4 次年度の目標（案）

① 福祉的就労について課題の抽出ができている。
② 教育機関との顔の見える関係性が構築され、課題の整理ができている。

# 令和5(2023)年度みよし市障がい者自立支援協議会 精神保健福祉部会 事業報告書

(作成日：令和6(2024)年3月12日、担当：みよし市社会福祉協議会、はたらくサポートセンター 相談支援専門員)

## 1 目的

精神保健福祉の関係機関が連携し、精神障がい者が地域で安心して生活していけるよう、支援システムを構築する。

### 2-① 目標、達成度

精神障がい者の地域生活を支えるためにピアサポートの力を活用できている。	取組内容の達成度	80%	次年度の方向	継続
-------------------------------------	----------	-----	--------	----

### 3-① 取組内容

取組内容	実績	成果	課題(展望)
ピアサポーターを養成・スキルアップできる学習会等の内容を検討する。	12月にピアサポート体験会を開催した。参加者は6名。	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者から活動の継続を希望する感想があり、ピアサポーター養成への一歩を踏み出すことができた。</li> <li>今後の企画の見通しを立てることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ピアサポートに対する知識や理解は不十分であり、参加者に対しての学習機会の提供及び支援者や地域住民にピアサポートの有効性を知ってもらうための啓発活動を行う。</li> <li>ピアサポーターとして活躍する人材の発掘を継続する。</li> <li>令和6(2024)年度愛知県精神障害者ピア活動支援研修に参加するピアサポーターを養成する。</li> </ul>

### 2-② 目標、達成度

市の精神保健福祉の課題が集約できる体制ができている。	取組内容の達成度	50%	次年度の方向	継続
----------------------------	----------	-----	--------	----

### 3-② 取組内容

取組内容	実績	成果	課題(展望)
退院に関わる事例を取り上げ、医療と福祉の連携を検討する。	第2回部会内で医療と福祉の連携を目的に事例検討を行った。	医療と福祉の連携が必要という共通理解ができた。入院の段階から連携し、退院後までのフロー図の必要性を共有できた。	医療機関と福祉関係者が構成員となるWGを設置し、課題を共有しながら入院から退院後までの具体的な連携体制を構築する。
精神障がい者等サポート事業のひきこもり支援連絡会に参加し、課題の集約を図る。	8月と2月にひきこもり支援連絡会に参加し、部会で内容を報告した。	年2回のひきこもり支援連絡会に参加することで、部会で共有する課題の集約の仕組みができた。	ひきこもり支援連絡会へ継続して参加し、課題の集約に努める。

### 2-③ 目標、達成度

こころのサポートガイドinみよしの改訂ができている。	取組内容の達成度	75%	次年度の方向	修正
----------------------------	----------	-----	--------	----

### 3-③ 取組内容

取組内容	実績	成果	課題(展望)
部会で内容を精査・改訂し関係機関へ配布、配置する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>内容を精査し、市内事業所や医療機関から改訂に向けて情報収集を行った。</li> <li>印刷会社と打ち合わせを行い、改訂に伴う課題の確認と見積書を依頼した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発行までの日程調整ができた。</li> <li>内容を精査したことで、情報を更新でき、必要な人に必要な情報が届きやすくなった。</li> </ul>	発行のための予算確保、配布、配置場所、配布数の調整を行う。

#### 4 次年度の目標（案）

- |   |
|---|
| ① 精神障がい者の地域生活を支えるためにピアサポートの力を活用できている。                 |
| ② 市の精神保健福祉の課題が集約できる体制ができている。                          |
| ③ こころのサポートガイド in みよしを配布し、関係機関との連携や精神保健福祉の普及啓発に活かしている。 |

## 1 目的

日常生活を営むために医療を要する状態にある児（者）（以下「医療的ケア児（者）」という。）及びその家族の住み慣れた地域での生活をサポートするために多職種が集まり、必要なシステムや事業などを協議・検討し、具体的に実施する。

### 2-① 目標、達成度

医療的ケア児（者）を地域に知ってもらえている。	取組内容の達成度	100%	次年度の方向	修正
-------------------------	----------	------	--------	----

### 3-① 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
大規模災害を想定したシミュレーションを行う。	6月に本児と母、周知啓発 WG メンバー、福祉課、防災安全課でシミュレーションを行い、振り返りも行った。	シミュレーションを行ったことで、家族や支援者も危機感を感じ、事前準備が必要という理解につながった。また、振り返りをしたことで課題がみえ、取り組むことが明確になった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時に必要な物品等の準備が不十分なため、災害時持ち出しリスト等の検討が必要。</li> <li>次年度、災害時に特化した WG を設置する。</li> </ul>
災害に備え準備をする。	シミュレーションから出てきた課題の検討を行い、必要物品をリスト化した。		

### 2-② 目標、達成度

医療的ケア児（者）の受入れ場所を確保し、緊急時等に備えることができている。	取組内容の達成度	30%	次年度の方向	継続
---------------------------------------	----------	-----	--------	----

### 3-② 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
医療的ケア児（者）の一時的な受入れについて、市内医療機関と年間の動きを共に計画し、協議の場を設ける。	10月に市内医療機関や福祉課、部会長等で話し合いを行った。	次年度の方向性を話し合うことができ、一時的な受入れについて前向きな検討ができた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>座談会を再開し、顔合わせを行い、市内医療機関のイベントに参加することで本人や家族を知ってもらえる機会を提供する。</li> <li>可能な場合、家族の協力を得られる方を選定し、一泊できると良い。</li> <li>必要な予算について福祉課と協議をする。</li> </ul>

### 2-③ 目標、達成度

医療的ケア児等コーディネーターWGを中心に、市内医療的ケア児者の課題整理を行えている。	取組内容の達成度	100%	次年度の方向	継続
---	----------	------	--------	----

### 3-③ 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
市内在住の医療的ケア児（者）が抱える課題の整理と情報共有と行い、部会に議題としてあげていく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>年4回 WG を開催し、市内在住の医療的ケア児の情報共有や課題を確認することができた。また、WG を中心に研修会等を開催した。</li> <li>課題の整理を行い、部会に議題としてあげた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内在住の医療的ケア児の情報を共有することで、1人で抱えるのではなく、WG メンバーで支える仕組みができた。</li> <li>課題を整理することで、次に取り組むことが明確になった。</li> </ul>	課題の整理にとどまり、具体的な取り組みの協議までには至っていない。
「医療的ケアが必要な方の情報ガイド」を豊田市地域自立支援協議会と今後の取り決めをしていく。	豊田市地域自立支援協議会と協議した結果、各市で作成することになり、医療的ケア児等コーディネーターWG で修正を行った。	各市で必要な情報が違うことが分かった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>内容は現状のまま、イラストのみ変更する。</li> <li>NICU がある医療機関の担当が昨年度から変更になっている可能性もあるため、再度周知が必要である。</li> </ul>

医療的ケア児等コーディネーターの役割を再度、明確化する。	役割の再確認を行い、1月から新メンバーに任命書発行し、配置した。	医療的ケア児等コーディネーターの役割が明確になった。	次年度の受講者を医療的ケア児等コーディネーターWGで検討し、依頼する。
------------------------------	----------------------------------	----------------------------	-------------------------------------

## 2-④ 目標、達成度

医療的ケア児（者）の対応可能な事業所等（保育・教育含む）の連携強化のため、各ライフステージで研修担当を配置し、研修会等を企画・運営ができています。	取組内容の達成度	100%	次年度の方向	継続
---	----------	------	--------	----

## 3-④ 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
医療的ケア費給付事業利用者、学校教育課所轄の事業利用者対象の保育・教育の場での医療的ケアに対する知識・啓発を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月に在宅酸素利用者の中学校教員向けの研修会を開催した。</li> <li>各ライフステージ（9月に学齢期向け研修会（教育支援担当会）、1月に保育士向け研修会（園長会））で研修を開催した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校教員向けの研修会にて「当該生徒が自立していくためにどう教員が支えていくのか、担当教員だけ抱える問題ではなく、学校として支えていくことが必要だ。」と話があり、企画の意図が伝わった。</li> <li>各ライフステージでの研修で地域にサポートできる体制があることを知ったという意見が出たため、知ってもらう一歩となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員向け研修会について、次年度就学する児童がいるため、4月中旬には研修が行えるように準備を行う必要がある。</li> <li>今年度の研修は、「医療的ケア児者やみよし市の取り組みを知ってもらう」ことがテーマであったが、次年度ブラッシュアップした形で研修を企画する。</li> </ul>
市内事業所や訪問看護ステーション対象の知識や技術を伝達できる研修を開催し、連携強化できる環境を作る。	11月に事業所向け（市内事業所・市内訪問看護ステーション等）研修会を開催。	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修後、つながりができたという実績の確認ができた。</li> <li>アンケートの結果から「医療的ケアが必要な方の生活を支えていくため、人と人との繋がりを深めていきたい」という意見が多く、企画の意図が伝わった。</li> </ul>	支えてくれる仲間作りや顔のみえる関係性作りのため、継続的に研修を行う必要がある。

## 4 次年度の目標（案）

① 医療的ケア児（者）が災害時の準備ができています。
② 医療的ケア児（者）の受入れ場所を確保し、緊急時等に備えることができています。
③ 医療的ケア児等コーディネーターWGを中心に、市内医療的ケア児者の課題整理を行い、課題解決に取り組むことができています。
④ 医療的ケア児（者）の対応可能な事業所等（保育・教育含む）の連携強化のため、各ライフステージで研修担当を配置し、研修会等を企画・運営ができています。